
檻[おり]～前編～

s a n e

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

檻「おつ」～前編～

【ZPDF】

N4773D

【作者名】

sane

【あらすじ】

目を覚ますと、見たことも無い部屋。そこに居るのは、記憶を失つた”私”。手掛かりになる物は自分の物らしき荷物だけ。”私は何故、部屋に居たのか？記憶を取り戻す事が出来るのか？前編と後編に分けていますので、最後までお付き合い頂ければ幸いです。

ピト…ン
ピト…ン、ピト…ン

水滴が落ちる音がする。

私は、その音で目を開いた。

「こ…は…？」

見慣れない一室、周りはコンクリートの壁が取り囲み、粗末な水道管がむき出しになつていて。

出入り口らしい古い鉄製の扉が一つだけあり、ドアノブに手をかけてみると、鍵がかかっているのか、ドアは開く気配は無い。

上を見ると、天井には見るからに安っぽい電気が下がつていた。電球が切れかかっているのだろうか？

時々、室内が薄暗くなる。

「…」

私は…誰？

自分の名前が思い出せない！

自分が何者で、どういう人物なのか全く思い出せない

「どうして？…」

何故？この殺風景で無機質な部屋に、私は居るのか？いや、連れて来られたのかさえ判断出来ない。

半ばパニックになりながら、自分の周囲を見ると、スポーツバッグ

が田に止まつた。

この部屋の中には、他には何も無い。私はそのバッグを手に取り、中身を確認した。

自分の物と思われる着替えの服が一式と、二つ折りの財布、タバコとライター…携帯電話。

それから、使い込まれてボロボロの革製の手帳。

!!

「助かるんだ！」

私の心は一転、不安から喜びに変わつた。
急いで携帯電話を手にして、電波がある事を願いながら電源を入れた。

食い入るように画面を見つめる。

やがて、携帯電話の画面が映り始めた。

「…お願い、繋がつて！」

無意識につぶやいた言葉だった。

電波は圈外だった。

.....。

私は絶句した。

携帯電話を握つたまま、茫然としていた。

警察に助けを呼ぶことは出来ない。

完璧に外とは連絡が取る事は出来ないのだ。

絶望という感情が、またしても、私を支配した。
自分の呼吸、心臓の鼓動の音だけがやけにはつきり聞こえるような
氣さえし始めた。

その時、

数分、いや、数秒。瞬間だが我に帰つた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4773d/>

檻[おり]～前編～

2010年10月18日14時21分発行